

令和7年度 第1回図書館協議会

- 1 日時 令和7年6月20日（金）14：00～15：30
- 2 場所 上郷図書館2階視聴覚室
- 3 出席者（委員） 鋤柄委員、八幡委員、玉置委員、雄長委員、大池委員
島田委員、林委員、鈴木委員、千種委員
（事務局） 瀧本中央図書館長、関口中央図書館長補佐兼情報サービス係長、
矢澤中央図書館長補佐兼上郷図書館長、木下管理係長、
- 4 中央図書館長挨拶
- 5 会長及び副会長選出
出席委員からの立候補、推薦なしのため、事務局案として会長を玉置委員、副会長を雄長委員で推薦し、委員の承認を得る。
- 6 正副会長挨拶
- 7 会議事項
（1）令和6年度事業報告および令和7年度事業計画について
（2）その他
・中央図書館開館110周年記念事業について
- 8 連絡・報告事項

- 9 会議内容 （司会） 玉置会長
- (1) 令和6年度事業報告および令和7年度事業計画について
○会 長 最初に会議事項1、令和6年度の事業報告および令和7年度の事業計画について、事務局の説明をお願いします。
○事務局 資料「令和7年度図書館概要」により説明。

第5次飯田市立図書館サービス計画について

- ・飯田市立図書館のサービスは、中央図書館と県・上郷図書館の2つの地域館、飯田駅前分室、各地区16分館と1分室が協力しながら市民の皆さんへ読みたい本や知りたい情報の提供を行っている。

対象期間

- ・令和7（2025）年度から令和10（2028）年度までの4年間

第4次計画における課題

- ・令和6年度の文化庁の調査で1か月に1冊も本を読まない人の割合が62%、令和7年3月の別の調査で1か月に1冊も本を読まない人の割合が44%であったように、図書館を利用される方、読書される方と利用されない方、読書をしない方との差が大きくなっている。また、令和6年度に1回でも図書館で本を借りたことのある市民の方の割合は14%あまりであるため、図書館が本を借りるだけの場所ではなく、知りたいことを知ることができる場所であるということを知っていただき、多くの皆さんに利用してもらうための方策が必要である。
- ・こどもの読書については、授業などで読むのではなく自分から読書をするこどもの割合が年々下がっている現状である。郷土資料を使って学ぶ方も減っていることが数字からわかる。また、読書を通じて交流活動を行う人たちも高齢化などにより減ってきている点が課題である。

基本方針

- ・一人一人の読書と学びを支えます
- ・読書を通じた交流やつながりを広げます
- ・地域の歴史と文化の記録を蓄積し、現在から将来にわたって地域の学びに生かします

4年間の具体的な取組

- ・「Ⅰ 図書・資料・情報提供の充実」では、図書館を気軽に利用してもらうための環境づくりの取組や、司書が調べもののお手伝いをするを周知して活用していただくことを重点としている。
- ・「Ⅱ 学び合いによる人と人とのつながり、読書や学びが広がる場づくり」では、読書会や読書を通じた学び合いや交流の機会づくり、令和7年度に中央図書館が飯田町の町立図書館として大正4年に開館してから110周年を迎えるにあたり記念事業を行い、図書館を利用していただいたり、図書館で何かしたりするきっかけにってもらうよう取り組んでいく。
- ・「Ⅲ こどもの読書活動の推進」では、絵本を読んでもらうことから自分で文字の本を読むようになる、自分から本を読みたいという気持ちになるような取組を行っていく予定である。
- ・「Ⅳ 身近に使える分館の充実」では、分館が本を借りるだけの場所ではなく、係の方とお話をしたり行事で集まった方たちが交流したりする場となっていることから、気軽に立ち寄れる「私の図書館」として地区の皆さんに利用していただき、地区の中の居場所になることも目指していく。
- ・「Ⅴ 安全・安心して使える施設の整備」では、計画的に施設の修繕等を行う予定である。

令和6年度（第4次計画）の振り返りと令和7年度（第5次計画）の取組

Ⅰ 図書・資料・情報提供の充実

- ・利用者のリクエストを最優先し、利用状況や分野のバランスを取りながら多様な図書を購入し、提供した。貸出利用者数は前年度並みだが、誰もが気軽に来館できる場所になるための機会づくりの検討を進めていく。
- ・令和5年度のシステム更新でスマートフォンに利用者番号バーコードを表示させる方法が簡易となったため、広報に力を入れた。スマートフォンを使用して本を借りる方が増加している。

- ・国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」に郷土のレファレンスを蓄積して、類似レファレンスに活用できるように努めている。また、多様な分野の事典類を一括検索できるデータベース「ジャパンナレッジ」を導入し、使い方や事典類を紹介する「図書館を使った情報の探し方講座」を実施した。今後はテーマ展示等でレファレンス事例の紹介や情報探索ツールの紹介などを行っていく予定である。
- ・ビジネス支援では、他機関が行っている講座で図書やビジネス支援サービスの紹介をしたり、「好き」を仕事にしている方から起業についてのお話を伺うトークイベントを行ったりした。図書館を利用していなかった方にも来館していただけた。
- ・障がい者サービスでは利用案内パンフレットの改訂を行った。今後はサービスを必要とする方へ届くPRを進めていく。
- ・郷土資料を活用して学ぶ方が減少しているため、美術博物館の企画展示や歴史研究所の研究集会、公民館の講座に合わせ、関連資料の展示や図書リストの提供を継続して行う必要がある。
- ・計画的に貴重資料のデジタル化を進め、狭隘な書庫の現状から保存すべき資料の精査を行う。

Ⅱ 学び合いによる人と人とのつながり、読書や学びが広がる場づくり

- ・令和7年に中央図書館開館110周年を迎えるにあたり、令和6年4月から市民のみなさんと一緒に記念事業の検討を行った。8月に企画運営を行う市民団体「いい図書110もりあげ隊」が立ち上がり、企画の具体的内容を決めてきた。記念事業は、「中央図書館のあゆみ展」やシンポジウム「図書館の明日を語る会」、ミニ企画を集めた催し「としょかんマルシェ」、図書館PR動画制作などを実施予定。
- ・文学講座は長沼万里氏を講師に「源氏物語に親しむ」を開催した。また、飯田下伊那読書会交流会実行委員と協働して有吉佐和子の『青い壺』読書会を開催し、本や読書を通じた交流の場となった。
- ・伊那谷地名研究会の皆さんと一緒に郷土資料を使い地名を自分で調べる講座を行った。引き続き参加者が主体的に学べる講座を開催する予定である。
- ・三穂地区旧小笠原家書院築400周年にあたり、中央図書館と三穂分館でテーマ展示を行ったほか、伊那谷地名講座で講演会を行ったり、地区主催のWikipediaTown（現地を歩き、地域の情報を本で調べてWikipediaに書き込むイベント）に協力したりして、広く関連の郷土資料を紹介することができた。

Ⅲ こどもの読書活動の推進

- ・こどもたちがこども時代に読書の楽しさを体験すること、知ることや学ぶことが楽しいと思う経験をするのがこどもの育ちに大切であると考えている。そのため、関係機関と連携しながら発達段階に応じた取組を行っている。
- ・乳幼児期には多くの絵本に触れる、大人から読みきかせてもらうことを大事にしており、読みきかせボランティアの方たちや関係機関と連携しながら、こどもたちへの読みきかせの機会を多くつくるように努めている。また、7か月児へ「はじめまして絵本」プレゼント、4歳児（年中児）へ「おともだち絵本」プレゼントにより、身近に絵本がある環境づくりに取り組んでいる。

- ・小学生の自発的な読書に向けて、学校図書館司書との連絡会、合同研修会の開催や、小中学校図書館のシステム導入の支援などを行い、連携して取組を進めた。また、学校図書館と協力して作成した学年別の図書リスト「よむリス」を小学生へ配布し、学校図書館と連携した活用を図っている。
- ・駅前図書館で高校生が本に親しむことを目的に、地元の漫画家の方を講師にお願いしたマンガ教室や押し本紹介などのイベントを4回実施した。今後も本を見にきたりイベントに参加したりする高校生とのつながりをつくる取組を進めていく。
- ・こどもの読書に関わる定例講座、こどもの読書について考えるグループワーク、児童書作家の杉山亮氏を講師にお迎えしたこども読書活動推進講演会、読みきかせボランティアの会の研修会、小中高校図書館司書との合同研修会、保育士との情報交換会など、読書推進について考える機会を持った。令和7年度も講座や講演会、研修会、関係機関や市民の方とこどもの読書についての意見交換を行い、こどもの読書活動推進の体制づくりを行っていく。

IV 身近に使える分館の充実

- ・分館では、公民館や育成会と共催でおたのしみ会等を行ったり、小学校図書館と連携してビンゴやスタンプラリーを行ったりするなど、地区の関係機関と連携して様々な読書推進事業を実施した。また、4歳児へのおともだち絵本のプレゼントに分館職員が参加し、分館と保育所との連携を推進した。
- ・地区の特色に沿った本や、地区内の学校・保育所・老人施設等の要望に応える本を購入し、提供した。
- ・引き続き、来館者とのコミュニケーションを大切にして、誰でも立ち寄って気軽に話せる居場所であることを目指していく。

V 安全で安心して使える施設の整備

- ・「飯田市教育委員会施設等総合管理計画」に基づき、施設設備の定期的な点検、予防保全型の修繕、環境に配慮した施設設備の更新を進める。
- ・令和6年度は、中央図書館の空調設備更新工事、照明LED化工事、屋根・西側一部外壁改修工事、遮熱ロールスクリーン設置工事、伊賀良学習交流センターの照明LED化工事等を実施。
- ・令和7年度は上郷図書館の照明LED化工事、受変電設備更新工事、中央図書館消火栓ポンプ用蓄電池更新工事等を予定している。

[質疑・意見聴取]

- 会 長 今の事務局の説明を受けて、ご質問ご意見等、お寄せいただきたいと思います。いかがでしょうか。
- 委員A 仕事が忙しいこともあり、中央図書館や上郷図書館はなかなか利用することができないが、身近にある分館を利用しており、身近に分館があることがありがたい。
分館に行った際に学校帰りの小学生や保育園親子の利用の様子を見ていると、楽しそうに本を選んでいる。また、分館での楽しそうな企画のチラシを見て情報を得るだけで

も、心地よい気持ちになる。

1点残念なことは、松尾分館が2階にあることであり、親子連れや高齢者の方から利用しにくいという声を聞く。すでに公民館にもこうした声が届いているかとは思いますが、何年先になるかわからないが、次に公民館を建設する際はぜひ1階に分館を設置していただきたい。

○会 長 私も松尾で分館も利用しているが、分館が所蔵している本の種類はどうか。

○委員A こども向けの児童書が多いが、個人的には分館はそれでよいと思う。子育て世代の利用も多いので、こども向けの本が充実していることで利用しやすくなっているのではないかな。大人は読みたい本が分館になれば、リクエストして待つこともできるし、中央図書館に借りに行くこともできる。

○委員B 館長のあいさつで、令和6年度に飯田市の図書館で1回でも本を借りたことがある市民の方の割合が14%とおっしゃっていたが、スマホやデジタルを見る時代になっている中で14%は多いと感じた。また、調べものに来館して本を借りなかった方はこの数字に含まれていないため、図書館を利用している人はもっと多いはずである。数字に表れなくても、図書館があることの意味は大きいと思う。

私にもこどもが2人いるが、本を読むと文章力がつくのでこどもたちに「本を読め」と言うが、どうしてもスマホを見るが多くなっている。家族内でも親の気持ちが伝わらなく、難しく感じる。

○会 長 令和6年度に飯田市の図書館で1回でも本を借りたことがある市民の方の割合が14%については、いかがでしょうか。

○委員C 図書館概要の21頁に令和6年度と令和元年度の「年齢別利用状況」が掲載されている。0歳から15歳までの人口は令和元年3月で13,688人、令和6年3月では11,917人と1割以上減っているが、0歳から15歳までの利用者数は、令和元年度が31,494人に対して令和6年度は30,430人で人口ほどは減ってはいない。こども達が図書館に通う頻度にそれほど変化がないということは、分館の方たちも含めて職員の皆さんが頑張っているということだと思う。

学校との連携も令和5年度から始まっているということであるが、学校の図書館は本があっても司書の先生がいないと、なかなかこどもが寄りつかない。司書の先生がいるときはこども達も図書館に行くので、本について話してくれる司書の先生が常勤で学校図書館にいるということが、こども達にとって大事である。こども達は本があるから図書館に行くのではなく、人がいるから図書館に行き、本に親しむのである。図書館で本に親しんだこどもは、一旦本や図書館から離れても、また図書館に戻ってくるはずである。児童の利用者数を見て、飯田市のこども達は健全に図書館を利用していることがわかってうれしかった。

○会 長 小学校の図書館の様子はどうか。

○委員D ○○小学校に4月から赴任してきたが、学校図書館は小学校の規模に対して部屋が狭く、蔵書数が少ないように感じる。令和7年4月から5月にかけて小学校図書館がコンピュータシステム導入のために休館しており、6月18日に開館したところであるため、

実際の利用状況はまだ把握できていない。

〇〇小学校では下校途中に分館に寄ってはいけなかったとしていたが、こども達に分館利用を促すために水曜日に限り分館に寄ってもよいとした。そうしたら、大勢のこども達に分館に行くようになった。利用方法に課題があるようであるが、水曜日は分館を利用して、学校図書館も利用するようになれば良いと思う。

○会 長

小学校の図書館は、放課後も利用できるのか。

○委員D

原則、開館は朝と 20 分休みの時間だけである。放課後は委員も下校するため、開館していない。

◇事務局

令和 5 年度から学校図書館の聞き取りを行っているが、小学校の図書館の開館は、朝と 2 時間目と 3 時間目の間の 20 分休みが基本で、昼休みに開館している小学校も多少ある。それ以外の時間は開館していない。中学校の図書館は放課後も開館している場合が多い。

分館の開館は水曜日の午後と土曜日終日が基本である。学校の下校途中に分館に寄ることについては、分館と小学校との距離や地域の事情などの関係で、寄ってもよい学校と寄れない学校とがある。

○会 長

学校の帰りに分館に寄れることは、こどもにとってうれしいことだと思う。中学校の様子はどうか。

○委員E

図書館の図書購入予算はきちんとあるため、生徒や教員からのリクエストにも応えられている。そのため、生徒も教員も図書館をよく利用している。

○会 長

こども達は本に触れているという話を聞いた。家庭でのこどもの読書はどうか。

○委員F

聞いた話だが、親が読みきかせに興味がないと、なかなか本を読まない。家庭では、こどもというより親が本や読みきかせに興味があるかどうかではないか。

分館が地域住民にとって身近であり、利用している。午後に行くと、多くの小学生が分館で楽しんでいる様子が見られる。伊賀良分館は平日午前中の開館が木曜日のみであるので、平日午前中の開館日をもう 1 日増やしてほしい。土曜日の午前中も開館しているが、土曜日は用事がある場合が多い。ただ、分館の沿革を読むと、最初は土曜日みの開館から水曜日が増えていったとあり、徐々に開館時間が増えてきていることはわかる。

○会 長

開館時間は分館に一任なのか。

◇事務局

地区の事情を考慮して、公に決めているものである。分館は当初、公民館の図書委員の方が係員として夜間にのみ開館している時期が長かった。昭和 40 年代になるとテレビが一般の家庭にも普及していき、地区の保護者の方たちから「こどもがテレビばかり見ている。本を読んでほしい。」という声上がり、地域文庫や家庭文庫が作られていった。文庫に携わる方たちや中央図書館で活動している「子どもの本研究会」の方たちが中心となって、日中こども達が図書館に行ける時間を作ってほしいということで、昭和 50 年代に分館の土曜日開館が始まった。松尾、竜丘、山本、伊賀良の人口規模が比較的大きい地区では、日曜日の開館も増やしてきた経緯があるが、分館の基本の開館時間は水曜日の午後 1 時から午後 5 時までと土曜日の午前 10 時から午後 5 時までである。

伊賀良分館は、分館の中では開館時間が多くなっている。乳幼児親子での利用は、たしかに午前中のほうがしやすいことはあると思う。

○会 長 中央図書館にはこどもを連れて行きにくいという声もあったと聞いた。分館にはこども連れで行きやすい雰囲気がある。開館時間を増やすことはできないか。

◇事務局 分館の係員の方たちは、地区との連携や地区の事情を知っている点などを考慮して、その地区住民の方たちを図書館で雇用している。分館は週2日の数時間の勤務であるため、係員の募集をしても応募がなかなかない状況もある。

○委員G 孫は保育園の頃は読みきかせをしてもらい、小学生の今は名探偵コナンの小説を借りてきて読んでおり、うまく本を手渡せばこどもは本を読む。三穂でeスポーツをしている人達がいて、ゲームをする人達は本を読まないと思われがちだが、eスポーツの強い人たちは本も読んでいる。こども達はゲームもするが、本や電子書籍も読んでいて活字には触れていると思う。

分館の方たちには公民館事業や人形劇フェスタの際に読みきかせや紙芝居をしてもらったり、分館の事業の際には公民館が手伝ったりして、お互いに協力しながら地区での事業を行っている。

ここ数年、三穂小学校の小学生が人形劇のお話を自分たちで作って演じているが、こうしたこともこども達の読書の力を育んでいるのではないか。

○会 長 地区で分館の係員の方を雇って開館することはできないか。

○委員G 今以上に開館時間を増やさなくてもいいのではないか。松尾・鼎・伊賀良地区のような人口規模が大きい地区では需要があるかもしれないが、中山間地域は人口も減ってきており、平日に開館時間を増やしてもあまり人は来ないかもしれない。

◇事務局 本に触れてもらう機会を増やすために、通常は午後の開館であるが、午前中に行っている乳幼児学級にあわせて分館を開館している地区もある。保育園が定期的に午前中に来館する地区では、その来館にあわせて午前中に開館している分館もある。

○委員H 上郷公民館で小学校の新たな副教材づくりを始めている。前回の副教材づくりに携わったが、副教材に載せる情報は必ず本に載っている情報で、出典を明らかにして掲載する必要がある。上郷図書館や中央図書館に協力してもらうことになると思う。

(2) その他

○会 長 それでは、その他について説明をお願いします。

◇事務局 ・中央図書館開館110周年記念事業について
・文学講座「江戸の出版文化と葛西の時代」チラシ、文章講座同窓会講演会「あなたの本ができるまで」チラシ、「ふしぎな目&ふしぎな絵〜くるくるアニメをつくろう〜」チラシ、「中津美奈子さんのわらべうたであそびましょ」チラシ、こども読書活動推進講演会「絵本から物語へ」チラシを説明

・飯田市立中央図書館開館110周年記念事業について

多くの方たちに記念事業に関わっていただけるように、様々な企画を予定。

～8月31日（日） 「図書館エピソード」

—図書館にまつわるエピソードや図書館でやってみたいことなどを募集

9月23日（火） としょかんマルシェ—出展者37団体

11月15日（土）～11月30日（日） 中央図書館のあゆみ展

11月29日（土） 図書館の明日を語る会—講演会、シンポジウム

～11月30日（日） 「よむとす こんなほんいかが」

—市民の皆さんからおすすめ本の紹介文を募集

図書館PR動画—飯田コアカレッジの学生の方に協力していただき、5分程度の図書館PR動画を3本制作中

- ・文学講座「江戸の出版文化と葛重の時代」（7月6日・中央図書館）

北斎館学芸員の中山幸洋氏を講師に招き、NHK大河ドラマで話題になっている葛屋重三郎と江戸の出版文化についてのお話をお聞きする講座。

- ・文章講座同窓会講演会「あなたの本ができるまで」（6月21日・上郷図書館）

文章講座を修了した皆さんの集まりである文章講座同窓会が主催して行う講演会。自分たちが書いた文章が本になる過程について、龍共印刷株式会社の方からお話をお聞きする。

- ・ふしぎな目&ふしぎな絵～くるくるアニメをつくろう～

（6月22日・かざこし子どもの森公園おいで館）

毎年実施している飯田市立図書館と南信州飯田おもしろ科学工房とのコラボ企画。図書館から職員がかざこし子どもの森公園おいで館へ出向き、科学に関連する本の読みきかせや紹介を行い、その場で貸出も行うこども対象のイベント。

- ・中津美奈子さんのわらべうたであそびましょ（7月17日・上郷図書館）

乳幼児親子を対象に中津美奈子さんを講師に招き、親子でわらべうた楽しむ講座。

- ・こども読書活動推進講演会「絵本から物語へ」（7月31日・中央図書館）

金城学院大学非常勤講師の小幡章子さんを講師に、こどもが自分から本を読むようになるための大人の働きかけについて考える講演会とワークショップ。

○会 長 ご質問などがあればお出しいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○会 長 「よむとす こんなほんいかが」で募集した市民の方からの紹介文は、どういう形で紹介するのか。

◇事務局 紹介する本の表紙画像（出版社の許諾が得られた場合）と合わせて飯田市立図書館ウェブサイトに掲載する。その後、南信州新聞に掲載予定である。

○会 長 これまで職員が書いていた「よむとす」が市民の方に変わるということか。

◇事務局 職員も書くが、「よむとす」の1つの回が市民の方の紹介文掲載となる。

○会 長 「よむとす」で紹介された本は、視覚障がい者の方にも聞きたいというリクエストがある。市民の方の紹介した本も、視覚障がい者の方たちに届くとよい。

○会 長 長時間にわたり、ご議論いただきありがとうございました。それでは、これで協議を閉じます。